



「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和元年 6月 12日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	鳥井 朋恵

1. 派遣国・場所 (○○国、○○地域)	
日本、鹿児島県熊毛郡屋久島町永田 3279-2	
2. 研究課題名 (○○の調査、および○○での実験)	
屋久島実習	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
令和元年 5月 25日 ~ 令和元年 5月 31日 (7日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)	
野生動物研究センター屋久島観察所 霊長類研究所社会生態研究部門 半谷吾郎准教授	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
今回の渡航では、屋久島に生息するヤクシカとヤクザルを追跡し、糞に集まるハエの種類と数について調査した。この調査で、ハエはシカよりもサルの糞に多く集まり、2種類のハエが、有意にシカよりもサルの糞を好むという結果を得た。実習を行う前は、すべての臭いものにハエが集まり、ハエも選り好みせずに糞に集まると予想していたので、糞を選り好みするハエがいることとシカの糞がハエには全然人気なかったことに驚いた。	
実習全体の感想としては、私は農学部出身なのでシカとサルは農業害獣だというイメージを持っていた。しかし屋久島、特に調査をおこなった西部林道では研究対象であり、鳥獣保護区として野生動物が保護されていた。TAの方々によると、屋久島でも農業が行われている地域や集落のある場所では、シカやサルは害獣として駆除が行われていて、研究対象にしていた群れが駆除により消滅したことも過去にあったという。人間と野生動物が共存していくために、保護と駆除のバランスを取ることの難しさを感じた。	
	
ヤクシカ	グルーミング中のヤクザル

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



今年の春に産まれたヤクザルの子ども



生後1~2日(推定)のヤクザルの子ども

6. その他 (特記事項など)